



週報

2018~2019 年度 RI 会長 パリー・ラシン
RI のテーマ 『インスピレーションになろう』
地区のテーマ 『想いを繋ぎ地域と国の発展に奉仕する』 ガバナー 茂木 正

国際ロータリー
第 2570 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕 狭山東武サロン 〒350-1305 狭山市入間川 3-6-14 TEL 04-2954-2511
〔事務所〕 〒350-1305 狭山市入間川 1-24-48 TEL 04-2952-2277 FAX 04-2952-2366
<https://www.schuohrc.org> E-mail: schuohrc@p1.s-cat.ne.jp
会長 清水幸彦 会長I&O 東 美栄 副会長 菊田邦彦 幹事 佐々木 康

〔第 3 グループ内の例会日〕 新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(火)、所沢西(火)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 1210 回(3 月 5 日) 例会の記録

点 鐘 清水幸彦会長
合 唱 国歌斉唱・奉仕の理想
第2副SAA 古谷会員 石川会員

※出席報告

会員数	出席者数	出席率	前回修正
32 名	23 名	85.19 %	-

副会長の時間

菊田 邦彦 副会長



私ども不動産会社は宅地建物取引業法に基づいて仕事をしています。そして取引成立の際には「売買契約書」を交わし、その契約書には印紙を貼ることが印紙税法で定められています。宅地建物取引業法の中で第 35 条は不動産取引にとっても重要な項目で、契約を締結する前に、売主や貸主になろうとする側が、買主や借主になろうとする者に対して、契約の対象となる不動産の状況を知らせるための規定であり、作成された「第 35 条書面」は「重要事項説明書」とも言います。

かつてのバブル期には 1 億円以上の取引が多くありました。売買契約書には当然印紙を貼るのですが、取引金額が高額であれば貼る印紙も高額です。その印紙税を節約するために、振込入金の場合は領収書を発行しないという会社もありました。また、ある会社

は「不動産売買契約書」に代わる「宅地建物取引業法第 35 条に基づく書面」なるものを作成しました。これなら印紙は不要と考えたのです。そしてこの書面に印紙税法が適用されるか否かを税務署へ相談に行ったのです。が、半年たっても一年経っても返答がなく、その後、回答要求の書面を 2 回出してやっと返ってきたのが、なんと「回答をしない旨の回答」でした。結局、「宅地建物取引業法第 35 条に基づく書面」を作成した会社は、税務署の調査、納税もすべて拒否しましたが、それに対する税務署のお咎めは一切なかったとのこと。何とも腑に落ちない出来事でした。

本日のお客様紹介

〈 佐々木康 幹事 〉

リバーフロント研究所 技術参与
水害 BCP 推進協議会 事務局長 土屋信行 様
交換留学生 アクセル 様
新狭山RC 西澤長次様 小川正幸様 東喜代雄様
石田嵩様 伊藤宣明様 田口勇男様

幹事報告

〈 佐々木康 幹事 〉

- ・セキュリティ強化に伴うホームページアドレス変更
- ・受贈会報 所沢西 RC 所沢中央 RC
- ・回 覧 飯能 RC 例会変更
入間南 RC 〃
所沢中央 RC 〃
行田 RC 「iPS 細胞研究講演会」のご案内
東日観光(株) 2019 年国際ローター年次大会(ハブルグ大会)参加旅行のご案内
国際ローター ブランドニュース特別号
地区事務所「ガバナー月信 3 月号」
web 配信のお知らせ

委員会報告

・親睦活動委員会（若松委員長）

3月記念日のお祝い

会員誕生	小林君	片山君
	浜野君	寶積君
	柴田君	宮岡君
夫人誕生	小幡君	
結婚記念	栗原(憲)君	奥富君
	栗原(成実)君	

卓話

リバーフロント研究所技術参与

水害BCP推進協議会事務局長

土屋 信行 様



昨年も豪雨災害の発生で多くの犠牲者が出てしまいました。また台風が複数上陸して猛威を振るい、さらに人的災害を発生させた地震も起きるなど、まさに日本は災害列島です。

これらの災害を振り返り、今後の災害において犠牲者をゼロにする取り組みを模索したいと思います。

命を守る避難情報はどうかあるべきか

＜繰り返される人的災害を憂う＞

1. 水災害

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）

総降水量が高知県の馬路村で1852.5mm、本山町で1694mm、高知県香美市で1389.5mm、岐阜県郡上市で1214.5mmなど、軒なみ1000mmを超えました。これまでに誰も経験したことの無い豪雨で、平成30年10月9日現在、死者・行方不明者は12府県

で232人となってしまいました。

台風21号

平成30年9月4日、徳島県に上陸した猛烈な台風で、瞬間風速が関西空港で58.1m/s、和歌山県和歌山市で57.4m/s、高知県室戸岬で55.4m/sを観測しました。

犠牲者は平成30年10月2日現在、死者14名を数えています。

台風24号

平成30年9月30日に和歌山県に上陸し、その後東日本から北日本を縦断。特に西日本、東日本の太平洋側を中心に各地で記録を更新する猛烈な風の台風でした。

2. 地震災害

地震災害では平成30年6月18日、大阪府北部でマグニチュード6.1の地震が発生。1人の女児が倒れた学校のブロック塀の下敷きになり死亡しました。

この地震による犠牲者は4名です。

9月6日には、北海道厚真町を中心にマグニチュード6.7の地震が発生。平成30年10月5日現在死者41名を数えています。

3. 犠牲者ゼロを目指して

内閣府は、避難勧告等に関するガイドラインを改定（平成29年1月）し、特に「避難準備情報」の名称について、岩手県岩泉町の水害で高齢者施設において適切な避難行動がとられなかったことから、高齢者等が避難を開始する段階であるということを確認するため、「避難準備情報」を「避難準備・高齢者等避難開始」に、同時に「避難指示」を「避難指示（緊急）」と名称変更（平成28年12月に公表）しました。

4. 避難情報の発令時期が遅すぎる

線状降水帯が特定の場所にとどまり続け、大量の雨を降らせるというような気象現象が今後も頻発することを考えると、避難指示・避難勧告のあり方も根本的に考え直さなければならなくなってきたと思います。

避難指示・避難勧告の発令基準の設定例は、

避難準備・高齢者等避難開始

- ①河川水位が避難判断水位に到達し、かつ引き続き水位上昇が見込まれる場合
- ②河川水位が氾濫危険水位に到達することが予想される場合
- ③軽微な漏水・浸食等が発見された場合

避難勧告

- ①河川水位が氾濫危険水位に到達した場合
- ②河川水位が堤防天端高を越えると予想される場合
- ③異常な漏水・浸食等が発見された場合

避難指示（緊急）

- ①河川の決壊や越流・溢水が発生した場合
- ②河川の水位が氾濫危険水位の場合
- ③異常な漏水・浸食の進行や亀裂・すべり等により決壊のおそれが高まった場合
- ④樋門・水門等の施設の機能支障が発見された場合

となっており、雨が降り始めない限り危険情報が発令されません。これは、情報を受取る住民が「どのような時にどのような段階でどのような指示が出れば命を犠牲にすることなく逃げきれるか」という視点が全く考慮されていないのではないのでしょうか。雨が降り始めてからの避難情報では遅すぎると思うのです。

5. 自己判断で早く行動する

情報を発令する側の判断基準はますます精緻にマニュアル化が進んでいますが、実際に避難をする住民側の視点からの判断に関する支援体制はないというのが現実です。

昔は地域レベルでの危険情報、安全情報は人から人へ、親から子へ、子から孫へと引き継がれてきたものなのです。

そのような言い伝えの中には「雨が降っていなくともあそこは危ない！」「どこどこは土砂崩れが起ころ！」「雨が降り始めたらあそこは近づくな！」など、行政の避難情報を待つまでもなく、地域における自主判断基準が継承されていたのです。

雨が降っている最中で一体何分間避難行動が継続できるでしょうか。

高齢者になったら体力の消耗もあり、長距離時間の避難は難しい。家族の中に小さな子供がいれば、体力の一番弱い子供に合わせて避難行動を決めざるを得ないのです。

夜間における避難は降雨の中で街灯も消えて通信手段も途絶えた暗闇の中で、道を探しながら歩く場面も想定しなければなりません。まさに台風の接近や降雨が始まってからの避難は自殺行為であると言わざるを得ません。

危険管理を担う者は、降雨が始まってからや夜間における避難指示は、近距離における垂直避難に限定して誘導すべきだと考えます。

6. 正常化バイアスが避難情報を改悪している

232 人の犠牲者を出した西日本豪雨のあと多くの住民アンケートが実施されました。その結果判明したのは「ハザードマップは知っていたが、まさか本当に河川が決壊するとは考えなかった」「避難情報が出ていたのは知っていたが、実際には逃げなかった」という人が約 80%を超えていたことです。

「たぶん大丈夫だろう」と考える正常化バイアス

に陥っている国民がなんと多いことか。

しかしこのことを受けて、それにも増した大問題が発生しています。それは行政による避難情報判断の改悪です。

ある自治体では「これまで避難情報を発令する目安としていた河川水位は、実際に水があふれ出すまでには相当の余裕がありました。そのため切迫性の認識が薄れ、皆さんの避難行動に結びついていないという課題を抱えていました。

そこで今後はより切迫した段階で避難情報を発令しますので、いち早く安全に避難するようお願いいたします！」と、とんでもない間違いをしたのです。しかも一つの自治体だけではなくいくつもの自治体が同じような発令時期の改悪を犯してしまっているのです。

河川が「決壊」というデッドラインに向かってどんどん水位を上げていく最中に「危険リスクがより高まらなければ避難情報を発令しない！」という行政の判断です。

これは住民を危険にさらしても「自治体は避難情報を発令した！住民は避難行動を起こした！」という「避難率の向上」だけを求め、高齢者や要支援者など実際に避難する住民の安全を全く考慮せず、行政内部の倫理だけが勝ってしまった結果だといえます。

この自治体が目指した「危険が差し迫るまで待つて、住民を危険状態にさらした上で避難行動を促した方が避難行動率が上がる」といういわば住民の命より行政内部の成果達成という本末転倒な決定をしてしまったのです。

避難情報は住民一人ひとりが安全に確実に避難できるように誘導することが本来の目的です。十分な避難時間を確保し、災害時弱者を含めて脱落者を一人も出さないようにしなければ、避難情報を発令する意味がありません。

まさに手段を目的化してしまった例だと思えます。このような自治体はすぐに考え直してほしいものです。



“災害列島”“正常化バイアス”というワードがいつまでも耳に残るお話でした。個人レベルの災害予防は沢山ありますが、どこにいても災害にいう危険性があるという危機意識と、正常化バイアスにとられない心構えが何より必須であると痛感しました。

土屋信行様、ありがとうございました。

東喜代雄様(新狭山RC)

本日はお世話になります。楽しみにして
いました。

伊藤宣明様(新狭山RC)

本日は宜しくお願い致します。

清水(幸)君新狭山RCの皆様、またまたのメーク
アップありがとうございます。本日の
お客様土屋信行様、卓話ありがとうござ
います。宜しくお願い致します。

佐々木君 土屋信行様、ようこそおいでくださ
いました。本日の卓話宜しくお願いま
す。新狭山ロータリーの皆様、ようこ
そおいでくださいました。本日は宜し
くお願い致します。

江原君 土屋信行様、お忙しい中お越しを頂き
ましてありがとうございます。本日の
卓話「多発する自然災害と市民生活の
復興について」を宜しくお願い致しま
す。

浜野君 本日の外来卓話土屋信行様、ようこそ
いらっしやいました。卓話楽しみにし
ていました。宜しくお願い致します。
アクセルさんいらっしやい。日本語が
上手になりましたね。

浜野君 誕生祝、ありがとうございます。一年
過ぎるのが早いです。

片山君 3月で82歳になります。

小林君 春の光を感じながらここまで来ました。
お誕生のお祝いをありがとうございます。
70の坂をよろよると越えましたが、
これ以降はスキップで行こうと思っ
ています。

栗原(成)君 3月は結婚記念日です。娘が40歳を
超えていますので今更という感じですが、
年々感謝を深くしています。

益子君 本日の卓話の土屋様、ようこそいらっ
しやいました。宜しくお願います。
アクセルさんようこそいらっしやいま
した。

宮岡君 誕生祝ありがとうございます。74歳、
ボケないように頑張ります。宜しくご
指導願います。

小幡君 妻が今日誕生日を迎えました。記念品
を頂き良いプレゼントになります。

奥富君 結婚記念日祝、ありがとうございます。
柴田君 土屋信行様、遠路はるばるありがとう
ございます。東日本大震災の件、リアル
なお話しをして下さい。又、小生の
誕生日の月でした。

田端君 本日は土屋信行様、貴重なお話しあり
がとうございます。大変関心を持って
拝聴させていただきます。

- ・4月、5月のプログラムについて
- ・会長・幹事会の報告

◆ 次の例会 ◆



3月19日(火)

第2副SAA：小島会員 小林会員

外来卓話：カネパッケージ(株)

代表取締役社長 金坂良一様

3月26日(火)

例会取り止め(定款8-1-C)